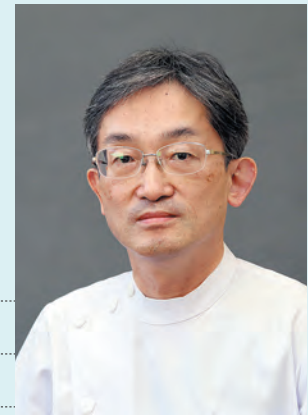




「あしの痛みが強い患者さん」に

整形外科・関節再建外科 **堀井 健志**



膝関節や股関節などの「あしの痛みが強い患者さん」に対しては、鎮痛剤や外用剤・関節注射・運動療法の指導など、保存的治療が第一選択です。これは、どの科の先生がされても大きな違いはありません。ただ、われわれ整形外科医は、「痛みの悪化や歩行能力の低下はないか?」「実は日常生活で結構我慢していないか?」「レントゲンでの進行は?」「MRIは必要?」など、専門家としていろいろ考えます。そして、最終手段としての手術が、「必要かどうか」「すべきかどうか」「するならどんな方法がいいのか」などを、患者さんの顔をじっと見たり（前より表情が暗くなっていないか?）、あるいは家族のお話（「最近外に出ないんですよ」とか）を聞いて、考えを巡らせています。

手術方法としては人工関節置換術が代表的ですが、それ以外にも、関節鏡手術、各種の骨切り術、「半分だけの」人工関節など多くの方法があります。それぞれの手

術に、「旬」とでも言うような適応のいい時期があります。時期を逃さず、最も適した方法を選んで手術を行い、患者さんに喜んでもらうことこそが整形外科医の専門性と喜びです。逆に言うと、手術をしてあげるべき「旬」を逃すことは、われわれにとって悔しく、患者さんにとって不幸なことに繋がりがねません。

「年はとったけど頭とからだは元気、でもこのあしのせいで思うような生活ができない」と思っている「あしの痛みが強い患者さん」がいましたら、一度われわれ整形外科医に紹介していただければと思います。手術は不要でそのままの治療でいいと判断できれば、患者さんも安心できるでしょう。常に、患者さんや家族にとってベストな治療方法を見つけていきたいと考えています。



1. 地域連携症例検討会

日時：6月8日（火） 19：00～20：30 場所：当院3階 講堂

1) ミニレクチャー 2題

(1) 「腎性貧血治療の新展開」

腎臓内科 大田 聡

1985年にエリスロポエチン（EPO）の遺伝子がクローニングされ、それからわずか5年の短期間で腎性貧血治療にEPO製剤が臨床応用され、透析患者さん、保存期腎不全患者さんの生命予後、QOLの改善に多大な貢献をしてきました。その中で一部の患者さんにおいてESA低反応が問題となり、鉄代謝の管理法も含めて、腎性貧血ガイドライン作成の際にも大きな議論となりました。2019年に我が国で初めて

の経口腎性貧血治療薬であるHIF-PH阻害薬が上市されました。本剤はESA低反応の代表的病態である慢性炎症を伴った腎性貧血において鉄の有効利用を通して、従来のEPO製剤よりも効果が発揮される可能性があり、腎性貧血治療が一つの転換点を迎えるといわれています。講演では腎性貧血の基本的な病態や最新のガイドラインの内容、HIF-PH阻害薬の話題について解説させていただきます。

(2) 「特別企画」

予告

日時：7月13日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

内容：①症例検討 2例 （担当）脳神経内科 泌尿器科

②ミニレクチャー 1題 （担当）脳神経外科

※定例の研修会、看護研修

当面の間、開催を見合わせております。

衛星研修S－Q U E研修は、今年度より開催中止となりました。



リハビリテーション科から

リハビリテーション科 竹林 由希世

リハビリテーション科は、医師2名（リハビリテーション部主任部長、リハビリテーション科部長）、理学療法士（PT）13名、作業療法士（OT）10名、言語聴覚士（ST）3名、助手3名のスタッフで構成されています。脳血管疾患・運動器疾患・心大血管疾患・呼吸器疾患など各疾患別リハビリテーション料（I）とがん患者リハビリテーションの施設基準に沿った依頼に対応しています。また、心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士、日本骨粗鬆症マネージャー、栄養サポートチーム専門療法士の取得や「がんのリハビリテーション」ワークショップを受講し知識や技術向上に努めています。

急性期病院におけるリハビリテーション科の役割は、入院早期からの介入とカンファレンス参加による退

院支援と考えています。入院前の生活にスムーズに戻る支援を行うには現状把握だけでは不十分です。カンファレンスに参加し入院前の生活状況や社会活動、今後の方針など総合的な情報を他部署と共有します。また、本人の思いを汲んだ目標設定、目標達成に向けたリハビリプログラムと実施、その効果を確認し必要時は修正し進めています。

昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でリハビリ治療を中断する事態を招き、当科の役割を果たせず多くの方にご迷惑をおかけしました。その後、「担当病棟の制限・3密の回避・入院患者と外来患者のゾーニング」を検討して、業務を建て直すことができました。これからも、患者も職員も安全に安心してリハビリを継続できるよう全スタッフで気を引き締めて取り組んでまいります。



医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

6月

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
内科	寺崎敏	11日	皮膚科	野村佳	10日～11日
	桶家	11日		大村	29日
	野村智	1日	呼吸器・血管外科	土岐	15日
整形外科・関節再建外科	重本	11日、25日	歯科口腔外科	朝倉	21日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112（代）内線2168

編集後記

新型コロナウイルスのワクチン接種も始まりましたが、変異株や第4波の到来とまだまだ油断のできない状況が続いております。

コロナウイルスが流行してから1年経過し、マスクなしの状態であると違和感があるほど、マスク生活が当たり前となりました。しかし、マスクをしていると相手に表情や声が届きづらくなってしまいます。マスクをしていても口角を上げ、明るい表情で、相談しやすい雰囲気づくりや良い接遇を心がけています。また、ご本人やご家族の思いも伝わりづらくなるので、些細な表情や声色に注意し、本当の思いを汲みとれるよう努めています。

「withコロナ」がまだ続きますが、1日でも早く終息し、笑顔あふれる日々が戻りますようお願いしております。

ふれあい地域医療センター 雨宮 里恵



作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 / FAX 076 (422) 1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp



ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/> がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp